

檜の会

平成二十年
春季
第二十六号

NPO法人「檜の会」事務局
京・東山やすい松小路
TEL/FAX 〇七五-五二五-〇八〇三

皆様のご意見、ご投稿など
お待ちしております。
E-mail BJS0324@nifty.com

企画・編集／檜の会会報編集室
発行／季刊（一・四・七・十月）
http://village.infoweb.ne.jp/hinoki/

朝鮮通信使宿館としての宗安寺

江戸時代、徳川幕府は戦の起らない国づくりを目指し、豊臣秀吉の侵略以来交流が断絶していた隣国朝鮮とも友好関係を築こうとして、朝鮮王朝に使者の派遣を要請した。これに答えて朝鮮は、慶長十二（一六〇七）年の第一回から、寛永元（一六二四）年の第三回までは、秀吉によって日本につれ去られた俘虜を調査して朝鮮に帰す「回答兼刷還使」を、寛永十三（一六三六）年の第四回より、最後となる文化八（一八一）年の第十二回までは、信頼を通わず意味での「通信使」を派遣した。この計十二回のうち、使者一行は十回江戸まで行っており、その往復途上彦根で一泊した。一行のうち三使（正使・副使・従事官）の彦根での宿泊所は宗安寺に定められていた。

宗安寺の三使の部屋は、書院奥の間で、そこには特別の書簡台を設けて朝鮮国王からの国書が置かれ、またこの部屋の近くには、国書をのせて運ぶ輿の輿置所が設置された。三使や上官たちの部屋にはそれぞれ新しく湯殿（風呂）と雪隠（便所）が建てられた。

本堂も本尊は幕で覆われ見えなくして、すべて上官たちの居所や対馬藩役人の詰所に使用された。本堂は元禄十五（一七〇二）年に長浜城御殿を移築したものとされており、改装はされているが、これ以後の、正徳元（一七一一）年第八回から宝暦十四（一七六四）年第十一回までの、江戸へ行った通信使一行が利用した建物である。

書院は明治三十六（一九〇三）年に改築縮小されたため、三使の間は今は残っていない。ただし、玄関は、屋根の葺替に使われた木片に天保十（一八三九）年と墨書されており、江戸時代のものと考えられるので、通信使は今ある玄関をあがった

ていったと思われる。
通信使随行員の記録によると、「彦根は街路と人物が豊盛で大坂に譲らぬ位である。宗安寺の屏風・布帳・什物の華麗さは、陸路通って来た中で最上であり、食事には銀の匙が用意され、その他提供される設備も全く豊富である。」と記されている。
寛永元（一七四八）年第十次『奉使日本時間見録』より

一豆知識

宗安寺

江戸時代の城下町において、寺院は有事に軍事施設となるため計画的に配置されていた。彦根にあつては旧外堀（昭和新道）に沿って、その内側に連続的に配置されている。夢京橋キャッスルロード（旧本町通り）にある宗安寺（浄土宗）もその一つで城南の備え、井伊直政夫人が両親のために建立した寺で、代々井伊内室の菩提寺として続いていた。通称赤門の寺と呼ばれ、佐和山城（石田三成居城）の大手門拝領した朱塗りの山門が見事、馬に乗っても通れるほどの高さがある。本尊はもと秀頼の母淀君の念持佛で大阪夏の陣の際に持出されたと伝えられている。昭和五十（一九八〇）年、体内から経巻が発見され、その奥書から文永七（一一七〇）年の造立であることが判明した。墓地には、大阪夏の陣で、井伊軍と戦って敗れた豊臣家の忠臣木村長門守重成の首塚がある。
彦根市本町二―三―七・電話〇七四九―二二―〇八〇一

朝鮮人街道

近江の国は、日本の真ん中に位置し、東海道・中仙道・御代参街道・八風街道・北国街道・北国脇往還・塩津街道・若狭街道・西近江道に加え、異国名を冠した朝鮮人街道がある。この朝鮮人街道は、中仙道（国道八号線）の野洲でわかれて、近江八幡から安土・能登川を経て、彦根にいたる。じつに曲がりくねった道である。幕府の將軍が交代するたびに、ご機嫌伺いに前述の通信使がやってきたが、その一行は、近江国野州に入り、中仙道を通らずにこの道を通ったことから朝鮮人街道という名がつけられた。

宗安寺で宿泊した通信使は、鳥居本へで再び中山道に入り江戸に向かった。曲がりくねった道であるのは、通信使に日本の国土が広いという印象を与えるためであったという説がある。
―参考文献―「近江の顔」滋賀県発行―



文学歴史散策に参加して

福野 一美

寒い北風の中、円山公園の桜の木を目指して急いで駆けつけました。少し遅れた為桜の木の前には誰も見当たりません。少しの間桜の木を眺めながら木の息吹を感じておりました。永い年月を経た桜の木には迫力があり、また昔を偲ばせて呉れます。あと一カ月もすればこの界限は爛漫と咲いた花見のお客さんで賑わう事だろうと思いつつ、皆さんと合流させて頂きました。

新参の私ですが、同じ想いで集まっていただける皆さんと共に、語り合えるのがとても心和む一時です。今回一番の楽しみは、当会副理事長の脇谷先生の水が流れる如く文学にまつわる史跡のご説明です。京都に居ながら京都を知らぬ私が、これを機に、円山公園を中心とする高台寺周辺を、**真葛ヶ原**と呼ばれていた事を知り、双林寺、西行庵、芭蕉堂等を訪ね、人々が温かい感情の流れや満ち溢れる愛を歌われた背景に、茫々とした原野の中で人生を旅されたことを想像致しました。今までは**真葛ヶ原**の地には、陰のイメージを感じておりましたが、芭蕉や西行などの歌人が足を運び住まいを求め、愛の炎をひそと燃やし感情豊かな歌の連座をなしたのであろう事を想いながら、歩みを進めました。

紫の庵と聞くはくやしき名をれとよに好ましき住居なりけり(西行)

京都にはあちこちに、真葛ヶ原と同様の色んな歌碑や庵があります。時折一人で歌碑巡りをします。板書きを読んで、なにも解らずひたすら歩いています。この会は脇谷先生のご説明を聴きながらの散策で、普段自分達で味わえないとても楽しい会でした。知識の奥から迸り出てくるような解説に感嘆し、今も昔も変わらぬ、男女の想い、喜び、悲しみ、苦しみを共に生きる、その文学の心を少しでも受け継いで学ばねばならないと思いました。

真葛ヶ原

我が恋は松を時雨の染めかねての真葛ヶ原に風さわぐなり(恋一・慈円)
 次回を楽しみに致しております。

(平成二十年二月二十三日記)

お知らせ

●檜の会主催

◆平成二十年度当会通常総会

とき 五月二十四日(土)

ところ 関電新京都センタービル3F(京都駅前)

議事 ・十九年度事業報告、収支決算

・二十年度事業計画、収支予算

ゲスト 人間国宝山田全一師(当会顧問)

「雅楽のお話と演奏」

◆伝統芸能を楽しむ会

とき 六月七日(土)

ところ 金剛能楽堂

内容 浄瑠璃系(歌舞伎)三味線音楽

・第一回「常磐津」(対談 唄・踊)

・演題「辰橋」「釣女」「若紫」など

●会員情報

◆春の伝統芸能大会

とき 四月六日(日)午後一時〜午後五時

ところ 八坂神社

出演 「一絃琴」京都山水会(二時四十五分頃)

◆卒業進級の家具展

主催 飛騨国際工芸学園(学校長 藤田一郎)

とき 四月十一日(金)〜十三日(日)

ところ 高山市民文化会館

◆「夕べの祈り」

とき 五月三日(土)午後二時半開演

ところ 観世会館

出演 朝倉 彩「三十絃の世界」 賛助・花柳双喜美

◆嵐山 三船祭り参加

とき 五月十八日(日)

申込 FAXで事務局へ、〆切四月二十日(限定十二名)

※ご意見ご提案お問合せは事務局までお寄せ下さい。

